
思い出の曲

恭愁

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思い出の曲

【Nコード】

N8911A

【作者名】

恭愁

【あらすじ】

誰にも思い出の曲はあります。私の思い出の曲のお話。

私と彼は出会ってすぐに付き合った。

彼に出会った時に運命という言葉が浮かんだし彼も私と出会った時に運命を信じたらしい。

三月の出会いの春だった。付き合ったきっかけはよく覚えてない。ただ、あたしがすごく好きな曲を彼も好きでそこから話が盛り上がった事は覚えてる。

その曲は彼氏が彼女の死とぶつかって：前に進むわけじゃないけど楽しかった日は胸の奥で生きてるから。

夢の中で会った彼女は何も変わってなくてこのまま夢がさめないで欲しい。

そんな歌詞で切なくて悲しいけどすごく綺麗な曲。

お互いそんな経験はないけれどなぜか共感できる曲だった。

私たちは今の状態、気持ちを曲に例えて言うのが好きだった。

例えて言う曲は幸せな曲ばかりだった。

一緒に住みはじめてからも買い物に行く時はお気に入り曲を口ずさむ。

手をつないで一緒に歌う時間が一番好きで毎日が楽しかった。

たまに他の人に聞かれて恥ずかしくて二人して顔を真っ赤にしていた。

そんな彼との生活も長くはなかった。

少しのずれが彼との別れの原因になった。

彼の家はかなり複雑だった。

その反面、私の家は裕福ではないけれど家族仲良く幸せな家庭だった。

彼は私の家にくるのが苦痛になってしまった。
だけど私はすぐに気付く事ができなかった。

もしも俺がこの家に生まれてきたら幸せだったのに。なんで俺だけ…
私にはその気持ちを理解できなかった。

でも必死に理解しようとしていた。

だけど同情しか浮かばなかった。

そして些細な喧嘩の時にやっと彼の本音がわかった。

彼はあたしに『大丈夫。二人で幸せな家庭を築いていこう？辛い思
いはさせないから』

そんな言葉が欲しかったらしい。

私は大丈夫？辛いよね…そんな言葉しか浮かばなくて…自分が情け
なくてただ泣くしかなかった。

ごめんね。って何度も何度も繰り返し言った。

考えれば簡単だった。

彼は幸せな家庭を知らない。どうしたらそうなるのかわからない。

あたしは幸せな家庭しか知らない。

そう考えるとあたしが『幸せになろうね。』

の一言だけで良かったのだ。

あたしはすぐに『絶対に幸せになろう。』

そう伝えた。

彼は笑顔で

ありがとう。今すごく幸せだよ。親とのめめ事を解決してくる

そう言って家に帰った。

あたしは嫌な予感がした。だけど彼が戻ってきたら幸せな毎日に戻
れると思った。

彼が家帰っている間、私も実家に戻っていた。

最近あまり帰ってなかったのが彼が戻ってくるまで家に居ようと思
った。一週間後、彼のお姉さんから連絡があった。

それはあまりにも悲しい知らせだった。
急いで一緒に住んでたアパートへ行くと、一通の手紙があった。
それは彼からで内容は

『今までありがとう。親とのめ事を解決させるどころか悪化させちゃった。』

正直この幸せが続かないかもしれないって不安なんだ。だからせめて幸せのまま死にたい。

亜希のせいじゃないからね？ 亜希が最期に愛する人で俺は幸せだよ。

』

信じられなかった。

彼はあたしが思ってたより弱かった。

それを気付く事ができなかった。

すべてあたしのせいだ。

しばらくあたしは何もできなかった。

彼のいない世界に興味はなかった。

もうだめだ。そう思った時、

夢に彼が出てきた。

夢の中の彼は一緒にいた頃と何も変わらず笑っている。

そんな夢が続いた。いつも目が覚める前に夢からさめないで欲しいと願った。

そしてふと思い出した。

今のあたしはすごく好きな曲と似ていた。

同じではないけれどすごく似ていて：

だから目の前の辛い事実より彼と過ごした幸せな日々を思い出す方が気が楽になったような気がした。

正直まだ前に進めない。気が付いたら涙を流してる。だけど彼を好きでいれる自信はあるから。

すぐに彼の傍には行けないけど彼の分までいろんな世界をみたいと思う。

大好きな曲から思い出の曲に変わったけれど。
相変わらず口ずさむよ。
そっちで待っていてね。

(後書き)

初心者ですのでもわかりにくい文章になってしまいました。すみませ
ん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8911a/>

思い出の曲

2011年1月20日04時33分発行